

現代日本の不平等の進展と地位達成過程

——2015 年 SSM 調査分析結果(6)——

○東京大学 三輪 哲

1 目的

本研究のねらいは、不平等の進展ないし格差の蓄積という視角から、日本の地位達成過程を再検討するところにある。ライフコースを通じた格差の蓄積は、近年の階層研究のホットトピックの一つである(石田編 2017)。若年者が初期キャリアで不利になると、その後に挽回できず、生涯を通して非常に大きな不利となるのか。また、高齢期を迎えると、そこまでの人生で蓄積された地位の格差はいかほどになるのか。そうした加齢による不平等の進展と、そこに至る地位達成の過程における諸要因の影響とを、最新の大規模社会調査データによって検討する。

2 方法

実証分析に使用するデータは、2015 年 SSM 調査データである。対象者の職業経歴と学歴、親の学歴と職業の情報をもとに、学歴は教育年数、職業は国際標準職業威信スコアへと変換し、変数として用いた。さらに累積職業威信スコアを求め、ストックとしての不平等を検討する指標とした(Hillmert 2011)。それらをもとに、地位達成モデルをあてはめて、出生コホート間で比較をした。

3 結果

年齢ごとの累積威信スコアについて変動係数を求めたところ、男性では 30 代はじめて若いコホートほど変動係数が大きい傾向があるが、40 代になるとコホート間の差異はほぼなくなった。そしてまた、加齢するごとに変動係数が拡大していくような傾向はみられなかった。女性では若いコホートほど変動係数が小さいという激しいコホート間差異と、古いコホートで子育て期に変動係数が低下する傾向がみられた。ただしここでも変動係数の加齢に伴う増加はみられなかった。

累積威信スコアを到達階層として地位達成過程を分析したが、コホート間で概ね安定的であった。ただし累積威信スコアに対する出身背景の影響は男女ともに 70 代以降に増加すること、学歴の影響は男性が年齢にしたがって微増していく一方で女性では減少していくこと、初職の影響は女性の 30 歳時で非常に大きいもののその後減少することなど、興味深い年齢に応じたパターンが観察された。

4 結論

加齢に伴って不平等が進展していくことは、職業威信でとらえる限りみられなかった。しかし、年齢段階ごとに地位達成へと影響する要因が変わりゆく様相に男女間での差異が顕著にあらわれる点は注目に値する。そして、70 代以降に出身背景というアスク립ティブな要員の影響が顕在化することから、高齢期におけるストックとしての不平等とその源泉を探求する試みの重要性が示唆される。

文献

Hillmert, S., 2011, "Occupational Mobility and Developments of Inequality along the Life Course," *European Societies* 13(3): 401-423.

石田浩編, 2017, 『格差の連鎖と若者 1 教育とキャリア』勁草書房。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP25000001 (特別推進研究) の助成を受けたものです。SSM データの使用にあたっては 2015 年 SSM 調査データ管理委員会の許可を得ました。記して感謝申し上げます。